

カトリック六甲教会 教会報

2013

5

No.497

イエスの傷の中へ

片柳 (助任司祭)



先日行われたラテラン教会でのローマ司教座着座ミサで、フランシスコ教皇は、イエスの傷に手を触れることを望んだトマスに言及しながら次のように語られました。

「『主よ、私はここにいます。私の貧しさを受け入れて下さい。あなたの傷の中に私の罪を隠してください。あなたの血で私の罪を洗い流してください』と祈ることでイエスの傷の中に入ってゆく勇気を見つけた人を、これまでの人生の中でたくさん見てきました。」

「イエスの傷に入っていく」という表現は、あまり聞きなれないもので、違和感を覚えた方もいるかもしれません。実はこの表現、カトリック教会中でとても大切にされてきた『アニマ・クリスティ』という祈りに由来しています。

この祈りはイエズス会の創立者、聖イグナチオが著した『靈操』の冒頭に引用され、『靈操』の普及とともに全世界に広がったため、聖イグナチオの作と勘違いされることも多いのですが、実際にはイグナチオの時代にはすでに一般的に唱えられていた祈りのようです。作者は分かりません。

「あなたの傷の中にわたしをつつみ、あなたから離れることのないようにしてください」とこの祈りの作者は願っています。一体どういうことでしょうか。さまざまな解釈がありうとは思いますが、わたし自身は「自分がいま感じている体や心の痛みを、キリストの痛みの一部にして下さい。キリストの痛みと一つになることで、あなたの復活の栄光にもあずかることができますように」という思いを込めて祈るようにしています。そのように祈っているうちに、それまで苦しみとしか感じられなかったすべてのことが、キリストの温もりの中で少しずつ喜びに変わっていくから不思議です。

キリストの傷、キリストの痛みと一体になった痛みには、どんな悪もつけ入ることができません。キリストの傷の中に隠れた人には、「こんな病気になったのは神から見捨てられたせいだ」とか、「この苦しみは無意味なものだ」というような誘惑はまったく無意味なのです。キリストの傷の中に隠れた人は、あらゆる痛みや苦しみが、キリストの愛の中で復活の喜びに変えられていくのをはっきりと感じているからです。

この祈りと共にキリストの傷の中に入り込み、キリストと一つになりましょう。

アニマ・クリスティ(キリストの魂)

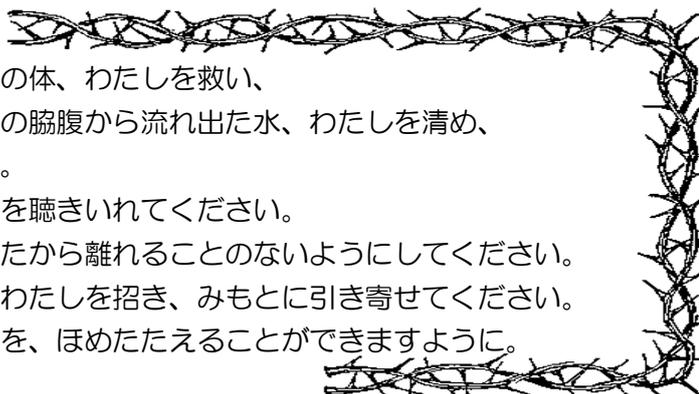
キリストの魂、わたしを聖化し、キリストの体、わたしを救い、
キリストの血、わたしを酔わせ、キリストの脇腹から流れ出た水、わたしを清め、
キリストの受難、わたしを強めてください。

いつくしみ深いイエズスよ、わたしの祈りを聴きいれてください。

あなたの傷のうちにわたしをつつみ、あなたから離れることのないようにしてください。

悪魔のわなからわたしを守り、臨終の時にわたしを招き、みもとに引き寄せてください。

すべての聖人とともに、いつまでもあなたを、ほめたたえることができますように。





シリーズ「何でも知っとこ」(2)

聖書に描かれたマリア様

片柳 (助任司祭)

5月はマリア様に捧げられた月です。この機会に、改めて聖書の中に描かれたマリア様の姿を確認しておきましょう。実際に聖書を開き、祈りの中で味わってみてください。

1. 旧約聖書に描かれたマリア

(1) 創世記 3 章

創世記 3 章 15 節は、福音を先取りする「原福音」と呼ばれていますが、この箇所に出てくる「女の子孫」にはマリアとマリアの子、イエスが含まれていると考えられます。「彼はお前の頭を砕く」というのは、マリアの子イエスが悪魔の頭を砕くという意味です。

(2) イザヤ 7:14 「インマヌエル預言」

神が人類を愛していることのしるしとして、おとめが身ごもることが預言されます。マタイ 1:23 でこの箇所が引用されています。

2. 新約聖書に描かれたマリア

(1) マルコ福音書

マリアへの直接の言及はありませんが、3:31 に間接的な言及があります。

(2) マタイ福音書

ユダヤ人共同体のために書かれた福音書なので、父系を重視し、ヨセフ中心のイエス誕生物語になっており、またイエスの言動を旧約聖書の実現として位置づける傾向がみられます。ですが、マリアを軽視しているのではないことは、次の箇所から分かります。

①1:20 でマリアに起こった出来事を、わざわざ天使が告知している。

②2:11 「3 博士の礼拝」では、イエスとマリアのみが礼拝の対象になっている。

(3) ルカ

マリアのことを最も詳しく描いている福音書です。

①受胎告知の場面でのマリアの卓越した信仰。

②エリザベトの挨拶。

③マグニフィカトに現れた、ユダヤ人女性としての典型的な信仰。

④2:19 で、マリアはすべてのことを心に収め、思い巡らす。神体験を軽率に人に語らない。

⑤11:27-28 では、イエスはマリアを軽視しているのではなく、マリアの恵みがどこから来るのかを明らかにしている。

(4) ヨハネ福音書

ヨハネ福音書では、他の福音書に見られないマリアについての記述があります。

①2 章「カナの婚宴」で、マリアはイエスの公生活開始に当たって大きな役割を果たした。

②19:26-27 でマリアは十字架の傍らに立っていた。イエスによる「教会の母」としてのマリアの宣言。

(5) 使徒言行録

1:14 に使徒たちと共に祈るマリアの描写があります。復活したキリストとマリアが出会ったという記述はありませんが、教会の伝統の中でそれは当然のことと見なされています。

(6) パウロの書簡

パウロの書簡にはマリアがほとんど出てきませんが、ガラテア 4:4 に言及があります。



無原罪の御宿り

(7) 黙示録

黙示録では、12:1 に終末においてイスラエルの 12 部族を従える女王としてのマリアのイメージが描かれています。



忘れないで!

～東日本の被災地から～

「東日本被災地のボランティア活動報告」

「忘れないで～東日本被災地から～」シリーズは今年 3 月に一旦終了いたしました。沖田さまが現地でボランティアをされ、その体験をご寄稿くださいました。今月から 5 回にわけてご紹介させていただきます。

東日本被災地は、今も無残な姿のままです。ところが時間が経つにつれ、一人また一人とこの現実を忘れていきます。まだまだ被災地は復興していません。どうか私たちの仲間が、一日も早く元の生活を取り戻すことができるまで、“忘れないで”彼らを支援し、心からの祈りを届けましょう。

「つなぐのは、ひと。ものや金じゃない。」

沖田

震災・津波から 2 年以上経っても、被災地はまだほとんどそのままの光景でした。

3 月 18 日から一週間、カリタスジャパンの大船渡・米川ベースを拠点としてボランティアに参加し、多くのことを感じました。報道されない、そこでしかわからないことを中心に、いくつかのテーマでまとめてみました。

1. 「神様が集めて下さった」

春休み中ということもあって、大船渡・米川のベースはどちらも高校生・大学生がボランティアのほとんどを占めていました。全国各地から、気持ちだけで集まった若者達が、共同生活の中で率先して活動に参加し、戻ってから真摯な心で分かち合いに臨み、感じたことを共有する中で、自分が得たものを何倍にも増やして成長していくのを実感しているのが伝わってきました。

ボランティアという「気負い」を持って来た人も、地元の被災された方々とのふれあいの中で、「人と人とのつながり」が原点にあることを感じ、どんどん肩の力が抜けて、笑顔が自然に明るくなっていくのがわかりました。「何かをしなれば」というのではなく、そこにいることで自然に話が始まり、今できることが心を通してわかってくるというのが、参加したみんなの思いだったようです。

確かに、阪神大震災の時とは大きく様相が異なり、いまだに瓦礫撤去という要請があったり、漁業支援が中心のベースがあるということは、神戸に長くいると理解に苦しむ部分があるかもしれません。比較にならないほど被災した状況というのが異なり、情報量が格段に多いからこそ、どうすればよいのかを的確に掴むのが困難になっているとも言えます。

ベースのスタッフの方々にしても、いろいろな支援要請に対してどのように向き合っていくか、真剣に議論の上で、その時のニーズに合わせた調整をされていますが、「なぜ」という問いの前に、「まず動く」ボランティア達はその答えを出しているようです。

たとえば漁業支援にしても、本来なら「仕事」である作業の一部をボランティアが完全に任されるということは、なかなか理解されにくい部分です。しかし現実問題として、船も道具も全て流され、働いていた人でさえもが亡くなったり、遠くの仮設住宅に移ってしまって人手が全く足りていない中、漁業でしか、その人のみならず、地域の復興はありえないという現実をみて、まず体当たりでその輪に入っていく、



(南三陸ボランティアセンター)

そこで「考えすぎない」行動が自然にできているのです。

カリタスジャパン担当司祭が米川ベースに入った日のミサで、信者・未信者関係なく参加したボランティア達に、説教でこう語りかけられました。「なぜ皆さんは今ここにいるのでしょうか。心でここに来た、言われたから来た、単位になるから来た、それぞれ理由はあるでしょうが、神様がここにお集めになった、そう思いませんか。」 おそらく、そこにいた誰もがその言葉に納得していたと思います。わずかに数時間前に初めて顔を合わせたばかり、一緒に活動した後、ともに食事をし、分かち合いをしただけなのに、もう「共同体」という意識が若い人たちに生まれていたと思います。

年齢・性別・国籍を超えて、狭い和室に司祭と共に正座して向かい合い、茶の器で捧げられた御聖体と御血を受け、祈りの時間を過ごした翌日、明らかにみんなの顔つきは変わっていたのです。「呼ばれた」ことを実感していました。そして、その声に「はい」と答えたからこそ、そこにいたみんなが「共同体」として生まれ変わったのだと感じさせられたのです。

韓国人留学生で、大船渡に来ていた女性は、早朝散歩に行った時こう話してくれました。「被災地で、何を見たらいいのかわからなかった。確かにここに生活があったことがわかるのに、何も無い。何をしてもよいのかさえわからなかった。大学でも普段は都会の生活に不自由なく、自分のことだけ考えていれば良かった。でも、ここに来て、活動をする中で「孤独」の意味がわかった。人と人のつながりは壁がない。壁を作るのは自分の心で、それを壊したら何の抵抗もなく、こんなに初めて会う人たちと自然に接することができた。韓国人であるからとか関係なく、迎えてくれていることがわかって本当にうれしい。だから自然に体が動くし、感じたことを素直に話せる。」 基礎だけが残って、整地された土の中に顔をのぞかせる、そこに生活があった証を見つけて手を合わせた彼女にも、神様は素晴らしい力をお与えになっていたのだと思ったのです。

春休みが終われば、学生たちはまた普通の生活に戻っていきますが、「次の機会には必ず新しい人を連れて来ます。」と言ってベースを後にして行きます。その時、ベースでは「さよなら」とけっして言いません。別れのあいさつは「行ってらっしゃい」なのです。いつかあるかも知れない再会に向けてだけでなく、神様が派遣してくださる、その気持ちの表れでもあり、「共同体」にいつでもいるのだと実感させてくれる出発です。

現地にボランティアとして行く機会がもし与えられたのなら、ぜひ「集められた」者として、心には「何も持たず」行かれることをお勧めします。帰る時には必ず神様が「かかえ切れないほどの実り」を委ねて下さいます。

それぞれのベースの活動内容をブログで見ることができます。関心のある方はどうぞ。

大船渡ベース <http://ameblo.jp/ofunatobase/>

米川（南三陸）ベース <http://c.jyonekawa.wordpress.com/>



2013 年度集会祭儀司式者と聖体授与の臨時の奉仕者紹介

2013 年度の集会祭儀司式、聖体授与の臨時の奉仕の務めに、次の方々が任命されました。

集会祭儀司式者

		5	ヨハネ	志田	
1	ペトロ・アントニオ	飯塚	6	アシジのフランシスコ	高橋
2	幼きイエズスのテレジア	大倉	7	カタリナ	堤
3	アンナ	古泉	8	クララ	藤井
4	ヨゼフ	佐久間	9	アシジのフランシスコ	藤原

聖体授与の臨時の奉仕者

		13	ヨゼフ	佐久間	
1	マルガリータ・マリア	阿部	14	ヨハネ	志田
2	ペトロ・アントニオ	飯塚	15	アシジのフランシスコ	高橋
3	モニカ	牛尾	16	クララ	橋
4	幼きイエズスのテレジア	大倉	17	イグナチオ・ロヨラ	詫
5	クララ	沖田	18	カタリナ	堤
6	イグナチオ	鍵山	19	ヨハネ	中村
7	ヨゼフ	川合	20	マリア	久本
8	パウロ	木暮	21	インマニュエラ	福島
9	マリア	木暮	22	クララ	藤井
10	テレジア	北上	23	マリア・ベルナデッタ	藤原
11	アンナ	古泉	24	アシジのフランシスコ	藤原
12	イシドロ	河野	25	ルドヴィコ	船井



★ 復活徹夜祭 ★ 3月30日（土）

受洗の喜び

カトリック教会2千年の歴史で初めて南米出身の「イエズス会」からの新教皇がご誕生になられた記念すべき年に、六甲教会にて洗礼を授かる機会を頂戴したこと感慨無量のものを感じます。

これまで徒然なるままに無為に70年余、齢(よわい)を重ねてまた私達老夫婦にとって「洗礼の日」が近づくにつれて期待と不安(多少?)の入り混じった日々を送ってまいりました。意を決して臨んだ当日、厳粛な中にも司祭様、代父母様、会衆の皆様の暖かい祝福を受け、無事に仲間入りをさせていただいたこと、心より感謝いたしております。



人はこの世に生を受けて何回かの人生の転機に遭遇するわけですがその一環として、今回復活徹夜祭洗礼式に預かされて頂いた点、肝に銘じ今後の処し方に生かしていかなばならぬと改めて痛感した次第です。そして肩の荷をおろして、多少ホッと一息ついているのも事実で、本当に皆様ありがとうございました。(アシジのフランシスコ・坂田、小さき花のテレジア・坂田)

主のご復活お慶び申し上げます。

聖書を読みながら「神様を信じていたら大丈夫」と奇妙な確信を得た頃から洗礼を希望するようになりました。ところが神様を信じるのは以外に難しい。「全能の父である神を信じます」と、使徒信条を唱えるにふさわしい生活を送っているのだろうかと考え始めると、いっそ神を知らずに生きる方が楽だと感じたこともありました。それでいて「本当の幸せは神により頼む生き方を通して見つかるのだ」との思いに揺らぎがなく、このたび受洗の恵みに与りました。

これからどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(マリア・アヌンチアータ 野村)

カトリックとの出会いは三十年前、娘の聖母幼稚園の園長先生からいただいたマリア像です。ずっと側において心のよりどころにしてまいりました。

この度洗礼を受けさせていただきまして、少しでもイエス様、マリア様に近づけたような気持ちになり、幸せを感じております。よろしくお願いいたします。
(マリア コンチェッタ 京極)

洗礼を授かるのは復活祭の時が一番良いと松村神父様にご指導をいただき受洗を決断し、四旬節の間ミサに参加させていただき、祝福を授かりながら日々を過ごしている間に、受洗の心構えが出来てきました。

特に枝の主日に参加させていただいた時は感動し、四旬節が受洗者の教育期間でもあるということを実感いたしました。

信徒の皆さまの温かいお支えと、何よりも神様のお導きによって受洗できたことを感謝しております。
(ヨセフ 久本)



★ オルガンメディテーションを聴いて ★ 3月31日(日)

中村

新緑の芽吹く春の復活祭によせて、3月31日のミサ終了後に開かれました。オルガン バロック・ヴァイオリン ソプラノ二重唱が演奏されてご復活の喜びを共に祝うのにぴったりの曲が数々演奏されました。

未だ、朝のミサのお祈りが一杯に満ちている空間に響く演奏は聴く人々の心に沁みわたりました。折から12時の鐘が鳴り始めて暫し演奏は中断して鐘の音に聴き入りましたが、初めからプログラムに入



っていたような自然な流れでした。

来る5月18日(土)17:30p.m.には聖雲降臨によせて、オルガンメディテーションが開かれます。是非、聖堂でお祈りの時をお過ごしください(詳細は9頁のお知らせをご覧ください)。

教会学校だより

☆4月13日は新1年生6名を加えて、児童34名の参加で入学式と始業式が行われました。

今年度の学年担当予定のリーダーは以下のとおりです（敬称略）。

- 1年生・・・久保、佐藤、その他高校生リーダー2名
 - 2年生・・・吉村（千）、その他大学生リーダー2名
 - 3、4年生・・・片柳、吉村（光）、大橋、その他高校生リーダー2名
 - 5、6年生・・・阿部、吉村（祐）、松平、その他大学生リーダー2名
- ※リーダー募集中です、お気軽に声をおかけ下さい。



☆今年度の主な予定

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 5月26日・・・中高生会との合同遠足 | 9月28日・・・ミニ運動会 |
| 6月2日・・・初聖体・祝福式 | 12月15日・・・クリスマス会 |
| 8月8日～11日・キャンプ | 1月11日・・・餅つき |

☆「解放クラス」始まる！

この4月より、教会学校が始まる午後2時30分まで、教室（第1会議室）を解放し、各自宿題などを持ち寄って自習する「解放クラス」を始めます。午後1時頃から教室を開けて、リーダー（大学生、高校生も来てくれます）が自習のお手伝いをします。

※ 自習のお手伝いをしていただける方も募集中です。子供の要望によってはギターやピアノ教室なども出来ればと考えています。将棋や囲碁道場なんかもしたいのですが・・・。

※ ただし、「解放クラス」は教会で結婚式がある日は、中止となります。

（6月15日は結婚式の予定があるので「解放クラス」はお休みです）（教会学校 大橋）



“みんなで堅信式を祝おう” 2013年5月12日(日) 10:00 於:六甲教会

目にうつる景色は「花の雲」から「目に青葉」へと移り変わろうとしています。これからはばらくは一年でも最も爽やかな季節でしょう。その5月12日(日)に東ブロック合同堅信式が六甲教会で行われます。先日、配布された教会のしおりの3ページ「堅信の秘跡」の文中には「人々は主イエスの名によって洗礼を受けていただけで、聖霊はまだだれの上にも降っていなかったからである。ペテロとヨハネが人々の上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。」（使徒行録8:16）が引用されています。堅信式は教会にとって重要な行事の一つです。

東ブロックの合同堅信式は2年に一度行われており、今回は池長大司教が堅信の秘跡を授けてくださいます。受堅者は34名（4/20現在）で内訳は六甲15名（大人3名、子ども12名）、神戸中央13名（全員子ども、うち英語圏10名）、住吉6名（全員子ども）となっています。堅信式は10時のバイリンガルミサの中で行われます。

また、ミサ後は、池長大司教も参加されて盛大なパーティーも計画されています。数少ない東ブロック3教会合同の行事です。3教会の堅信を受けられる方々、また、3教会の信徒、関係者が一緒になって祈り、祝福しようではありませんか。皆様のご参加をお待ちします。なお、当日は駐車場の混雑が予想されますので、マイカーのご利用はお控えください。（河野）

2013 春の黙想会 テーマ：信仰のまなざし 主催：六甲教会宣教部

～みことばを生きるために～

「御言葉はあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるのだから、それを行うことができる。」
(申命記 30 章 34 節)

「神さまはお鍋の中にもいらっしゃいます。」(アヴィラの聖テレサ)

わたしたちが神と出会うためには大きな業を行ったり、遠くへ旅をしたりする必要はありません。神はわたしたちのごく近くにおられます。日常生活の中におられる神に気づくために、「信仰のまなざし」をいただきましょう。

参加希望者は聖堂入り口に設置の申込書に氏名・所属教会名・電話番号またはメールアドレスを記入の上、六甲教会事務所へ提出ください。Fax. 078-851-9023 でも受け付けます。当日参加も歓迎！！



日時：5月18日(土) 10:00～16:00 (15:00～教会聖堂でミサ)

※「教会のしおり」と日程が異なっております。ご注意ください。

場所：六甲学院生徒研修所 指導：赤松広政神父 会費：無料

対象：どなたでも 昼食：各自持参 (温かいお茶は用意します)



Organ Meditation

聖霊降臨によせて

2013年5月18日(土) 17:30～

バロック・ヴァイオリンとヴィオラ・ダ・ガンバの2重奏他

於：カトリック六甲教会主聖堂 入場無料



イエスのみ心のミサと聖体顕示について



教会は毎年、聖霊降臨後第2主日後の金曜日を「イエスのみ心」の祭日として祝います。今年、6月7日が「イエスのみ心」の祭日です。

六甲教会では、伝統としてこの「イエスのみ心」の祭日のミサの終わりに、ご聖体を祭壇に顕示し、約2時間の聖体礼拝をいたします。聖体礼拝が終わりましたら、ご聖体を聖

櫃に納める前に、司祭によって聖体賛美式が行われ、聖体によって会衆に祝福が与えられます。『聖体に対する信心は、キリストの死と復活の神秘に深く参加すること、また、神のいのちをそのからだである教会に、絶え間なく注ぐ主に感謝することを目的としている』とカトリック儀式書にかかれています。私達は、聖体礼拝に与かる事によって、主のみ前に心を打ち明け、自分のため、親しいすべての人のため、また平和と世の救いのために祈ることが出来ます。

六甲教会では、年に一度の聖体礼拝です。信徒の皆様が、荘厳な静けさの中ご聖体の前で黙想することによって、イエス・キリストとの深い出会いを体験されますように、皆様のご参加をお待ち申し上げます。ております。(み心の月については、教会報 2012 年 6 月号をご覧ください) (典礼部 堤)



《図書室からのお知らせ》 図書室より

2013 年 3・4 月の購入図書(一部)の紹介

☆ **日本史のなかのキリスト教** —— 長島総一郎 著 三浦功神父 監修 PHP 新書

日本の社会のなかへ大きな影響を与えたキリスト教(カトリック)について述べる中で、キリスト教を広く学べる解説書。フランシスコ・ザビエルやキリシタン大名、二十六聖人、高山右近、ペトロ岐部カスイ、シドッティ、… ド・ロ神父、浦上四番崩れの中の高木仙右衛門と岩永マキ、ハンセン病と共に歩んだ井深八重と岩下壮一神父、コルベ神父…、マザーテレサ、なじみの名前が並ぶ。日本の殉教について考え、三位一体や原罪、ミサ聖祭や修道会などキリスト教について知っておきたいことをコンパクトに説明しています。

☆ **まんが 田中正造** —— 下野新聞社刊

渡良瀬川の足尾銅山鉍毒事件に立ち上がり、生涯を奉げた巨人＝田中正造の考え方と行動を分かりやすく表現してくれます。人々の幸せを願い、戦い続けた姿は私たちが力づけてくれます。



《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

📖 三日月会

5月20日(月) 三日月会例会

📖 地区会

5月26日(日) 地区役員会

📖 中高生会

5月26日(日) 教会学校と合同遠足

📖 社会活動部

5月3日(金) 初金ミサ後連絡会

📖 教会学校

5月26日(日) 中高生会と合同遠足

📖 広報部

6月1日(土) 教会報6月号印刷

📖 宣教部・養成部

5月18日(土) 春の黙想会 10:00

📖 施設管理部

5月26日(日) 10時ミサ後部会

《 お 知 ら せ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★ 社会活動部より★

- 5月1日（水） 10時 ♪手芸の集い 第1・2会議室 どなたでも参加ご自由です。
- 5月11日（土） 10時 ♪炊き出し（イグナチオお台所） ♪小野浜グラウンドにて配食や、おじさんたちとのお話し相手だけでもOKです。 ♪毎月第2土曜日
- 5月16日（木） 14時 ♪ベタニアの集い（イグナチオホール） ♪聖体拝領式&茶話会
- 5月19日（日）10時ミサ後 ♪ふれあい広場（イグナチオホール） ♪お弁当・手芸品・雑貨等の販売
♪東北支援物産店
- 5月24日（金）9時30分 ♪ともしびケーキ作り（イグナチオお台所）

★墓地っ子だより★

I地区（イエズス会墓地から車道の範囲）の通路の舗装を行いました。旧舗装が剥がれて歩き難くなっていました。更に、端の石がぐらついて危険でもありました。今回の舗装で安全に歩けるようになりました。

（墓地委員会 SF）



みんなの広場

聖霊来てください。

ヨハネ 三好

教会がまだ登山口バス停を南へ下ったところの「幽霊屋敷」にあったとき、ライフ神父司式、それにブンガルテン神父、クノル神学生、ドレーガ神学生のオルガン弾き謡いという臨時聖歌隊に加わってミサの“キリエ” “グロリア”などを辛うじて歌い僕が聖歌隊に加わった最初、それは晴れた「聖霊降臨の大祝日」だった。

聖霊は形がない、音もない、表しようがない。それでわたしたちは普段つい「聖霊」を意識しなくなる。聖霊降臨、それは過去に一回だけ現れた現象であり今も続いている現象でもある。1年に一回だけではなくこの主日の続唱を繰り返し読み心に刻み込んでおこう。 “聖霊来てください”

ミニ聖母の集い

緯度の高い地方ではこの時期になると一斉に花が開く。人々は花の野に神々をたたえて歌い踊った。その地に真の神を伝えた人たちは早速その地の習わしを取り入れ、古より花咲くこの時季に御母を頌え、5月を「聖母の月」として御母を讃えた。わたしたちも青葉の下で御母を讃えて祈り歌おう。晴れた日たまたま居合わせた二人、あるいは三人四人でも藤棚の下や駐車場の桜の下で、ロザリオ（誰でもバッグに忍ばせているだろうから）と聖歌集を持ち出せばもっといい、簡単に聖母の集いをしよう。御子と共に。

はじめる前に話し合っって常に特定の人にならないように決めた一人が主宰者になり、参加者が順番に先唱をする。祈りはすべて先唱者と他の人たちとの交唱の形にする。主の祈りは、先唱者「天におられる・・・」一同「わたしたちの日ごとの・・・」。アヴェ・マリアの祈りは、先唱者「アヴェ・マリア・・・」一同「神の母聖マリア・・・」。栄唱は、先唱者「栄光は・・・」一同「初めのように・・・」。使徒信条は、先唱者「天地の創造主・・・」一同「聖霊を信じ・・・」。

はじめに使徒信条一回、主の祈り一回、アヴェ・マリアの祈り三回、栄唱一回を唱える。それから5連各連の初めに主宰者が各連のタイトルを告げ暫時黙想の後、交唱の形で「主の祈り」一回、アヴェ・マリアの祈り十回、栄唱一回を唱え一連を終わる。

こうして五つの神秘を終えたら主宰者が締めくくりの祈りをして終わる。始めと終わり、更に連の間に適当な聖歌を歌えばもっとよい。大切なことはどの神秘を取り上げるのか、誰が何をするのか、どの歌を歌うのかなどなどその都度話し合っって決め特定の誰かにならないこと、交唱の形にすることである。

「二人または三人がわたしの名によって集まっているところには、わたしもその中にいるのである。」

(マタイ 18 : 20)

教会しおりの訂正 「2013年教会のしおり」に誤りがありました。ご迷惑をおかけいたしました。

ここに訂正し、お詫び申し上げます。

12頁 北・三田ブロック長のお名前「高山 敦子」⇒「高山 教子」(正)

19頁 中高生会のスタート時刻 14:00 ⇒ 10時ミサ後 (正) (広報部)



教会報 6月号の発行は、6月2日(日)です。
編集会議 5月26日(日)です。
記事原稿は、5月19日(日)正午までに信徒会館
受付へご提出願います。 (広報部)
<http://www.rokko-catholic.jp>

カ	ト	リ	ッ	ク	六	甲	教	会
〒	6	5	7	-	0	0	6	1
電	話	0	7	8	-	8	5	1
F	A	X	0	7	8	-	8	5
発	行	責	任	者	松	村	信	也
編	集	広	報	部				